

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターもみじ			
○保護者評価実施期間	8年 3月 1日		～	7年 3月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数)	22人
○従業者評価実施期間	8年 3月 1日		～	8年 3月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	7年 4月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員同士の連携、チームワークが取れている。	問題が起きた時は、全員で内容を共有して問題解決につなげている。風通しの良い関係性を築くためのコミュニケーションを大切にしている。	支援に対する提案やアイデアを気兼ねなく発信できる場をつくっていく。職員それぞれの得意分野を活かせる場をつくる。
2	児童の就園先との連携や情報共有の徹底化。	担任と信頼関係を築くために面談の場を設けたり、必要に応じて園訪問を行い保護者や担任の不安解消に繋げている。	園訪問だけでなく、事業所見学の声掛けを行っていく。
3	集団でありながら個々にはたらきかける丁寧な支援を行っている。	支援後のミーティングで共通理解を徹底し、次の活動に反映させている。個別支援計画書作成時は職員全員で話し合い意見を出し合いながら支援内容を決めていく。	当日不在の職員に対して決定事項の伝達漏れが無いように情報伝達の徹底化を行う。全児童の特性把握ができるように、偏りのない関わりを意識する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物が民家としての造りの為トイレが一つしかなく、トイレの時間に混雑する。部屋数が少ない為、粗大遊び用の遊具を和室に置いている。そのため和室の本来の目的であるクールダウンや個別支援室として使用する事ができない。	建物が賃貸であるため改築等が不可能。	トイレについては、必要に応じて簡易オマールを使用していく。粗大遊びをする部屋に収まる程度の遊具にする。倉庫等も活用していく。
2	幼稚園や他の事業所、その他地域などでの子ども同士の交流する機会がない。特に未就園児には事業所以外の人との交流が必要と思われる。	コロナ流行時期に様々な行事やお出かけを中止し、それ以来外部とのつながりがほとんどなくなってきた。	事業所以外の児童とふれあえる場をつくっていく。また、外出支援として地域でのイベントに参加していく。
3	保護者同士の交流の機会や兄弟に向けた支援が行われていない。保護者の情報交換の場を設けたり、きょうだい児にも目を向けていく必要がある。	以前、保護者同士の交流の場を設けたイベントを開催したが、会場として使った相談室のスペースが狭く大変だったためその後の開催に至らなかった。	保護者の意向を聞きながら、保護者交流のイベント等計画を行う。保護者セッションの内容を当該児童だけではなく、きょうだい児の相談も受け付ける様にしていく。